

労協ながののこども食堂 人とのふれあいが 成長を促す

新しい社会福祉と完全就労社会を目指し、
長野県下でさまざまな事業を展開している企業組合労協ながの。
その飯田事業所で、毎月2回、こども食堂が開かれています。
学び、遊び、一緒に食事を楽しむ子どもたちからは、笑顔が絶えません。



1. 食事の前にはしっかり手洗い
2. 子どもたちはみんな仲良し。オセロ大会はみんなで盛り上がりしました
3. 左が玲菜さん。初めて自分で TENT を張った時の大変さ、飯盒で炊いたご飯のおいしさなど、キャンプの思い出も話ってくれました
4. 子どもとボランティアと一緒に食事。他世代交流の場になっています
5. 信州こども食堂&勉強会IN飯田は月2回の開催。他のこども食堂と開催日が異なるため、保護者から好評です
6. 折り紙をしたり、ボードゲームをしたり、ボール遊びをしたりと、遊び方はさまざま。指導員も一緒に楽しい時間を過ごします
7. 勉強に取り組む姿は真剣そのもの。わからないところは学習支援の指導員がサポートするほか、子ども同士で教え合う時も



こども食堂では、できる限り子どもたちが手伝えるように心がけています。きな粉などをまぶす子どもたちは、みんな楽しそうです



何度も通っているうちに、自分がどれだけ子どもたちに求められて

「もともと人見知りで、話すのが苦手でした。でも、この人たちはみんな優しく、だんだん苦手意識がなくなりました」と話すのは初回からこども食堂に参加する中学1年生の玲菜さん。たくさんの大人や子ど

「初めて子どもを連れてきた時、すごく楽しかったと喜んでくれました。友達がつくれるし、イベントでさまざまな経験ができるのもいいですよね」
今回で2回目の参加という保護者が話してくれました。そんな声に目を細める加藤さん。「1月の餅つき、8月のキャンプと川遊び、12月のクリスマスは定番イベントとして実施しています。ただ、こうしたイベントはボランティアの協力があってこそ。今後、さらに活動の幅を広げていくためにも、多くの人に協力してもらいたいです」と続けました。実際、茶道の師範をしているボランティアが体験イベントを実施するなど、協力する人によつて柔軟に内容を変化させています。

者が増え、近隣の小学校へと広がっていきます。「地域の人々や行政、学校からの協力も、少しずつ得られるようになりまし」と加藤さん。食事や勉強のサポートをしてくれる人や、食材を提供してくれる人が現れ、企業や民生委員からのサポートも受けられるようになりました。特に地域の高齢者が多く参加し、多世代交流の場としても活用されています。

人とのコミュニケーションが子どもたちの成長を促す

いるのか、地域にとって大切なことをしているのかがわかります。

学び、食べて、遊ぶ みんながいるから楽しい

10時を過ぎると、労協ながの飯田事業所に続々と子どもたちが姿を見せます。信州こども食堂&勉強会IN飯田の始まりです。すぐに机へ向かうと、まずは勉強からスタート。各々が宿題などを広げ、鉛筆を走らせます。早く宿題を終わらせれば、みんなと遊べる。そう思ってたか、子どもたちの表情は真剣そのもの。早く勉強が終わった子どもは、年下に教える場面も。そんな様子を、労協ながのの加藤大真さんがこやかな表情で見守ります。元教師の経歴を持つ加藤さんはもちろん、勉強を教えた経験がない人もボランティアとして参加。子どもたちはそんな大人たちに物怖じせず質問します。集中して勉強を終わらせた後、次は楽しみにしていたこども食堂の時間です。

10月13日に開催された第54回のメニューはおはぎと豚汁。「できる限り子どもたちに手伝わってもらっているんです」と加藤さんが話す通り、きな粉やあんこをまぶす作業は子どもたちも参加。自分たちが食べられる分だけ、楽しいおはぎをつくらしていきます。みんなの準備が終わったら、手を合わせて「いただきます」。「おいしい」という声が、あちこちから聞こえました。
食べ終わった後は自由時間。折り紙をしたり、絵本を読んだり、ボール遊びをしたりと、過ごし方はさまざまです。しかし、加藤さんが小さなトロフィーを持ち出すと、子ども

たちは集合。オセロ大会が始まりました。「勝ったよ」「負けちゃった」。得意げな子も、悔しそうな子もみんな仲良く声を掛け合っていました。
**最初は苦勞したこども食堂
地道な活動が実を結ぶ**

こども食堂を開催している労協ながのは、1980年に長野市で設立された企業組合法人です。目的は高齢者・障がい者・失業者の仕事の創出。ビルメンテナンスや食の加工販売など、さまざまな事業を展開しながら、県内70カ所でもこども食堂を実施しています。

3年前に飯田事業所が開所してすぐ、加藤さんらはこども食堂の開催に奔走。しかし、当初は苦勞が絶えなかったといいます。「学校や地域の人々に協力を依頼しても、なかなか理解を得られませんでした。貧困や家庭に問題のある子どもを対象としているイメージが強く、そんな子どもはいないといわれる時もありましたね」。人も費用もかかるため、維持していくには地域の理解が不可欠でした。

しかし、辛抱強く開催を続けていくと、参加した子どもたちの保護者を中心に、徐々に口コミで知られていきました。まずは追手町小学校から参加



企業組合法人労協ながの 飯田事業所
加藤大真さん

もと接した経験は、学校生活でも役立つと続けます。また、キャンプなど普段できない体験も多く、「大変だけど、楽しい」と顔をほころばせました。

今後の目標は学習支援と保護者の会の強化。「みんなの力で、子どもを守る」。その目的のためには、より多くの人のサポートが必要です。「他人事ではなく、当事者として考えて、一緒に見守ってほしい。何度も通っているうちに、自分がどれだけ子どもたちに求められているのか、地域にとって大切なことをしているのかがわかります」。子どもたちに温かな視線を送りながら、加藤さんはそう呼びかけました。

かけがえのない居場所であり、学びと交流の場。それは大人にとっても例外ではありません。「ねえ、一緒に遊ぼう」と誘ってくれる子どもたちとの時間から、私たちが与える以上に大きなものを受け取っているでしょう。

information

**信州こども食堂&勉強会
IN飯田**

日時/第2土曜/10時~14時30分
第3日曜/10時~15時
参加費/子ども無料(大人は支援金300円~)
場所/旧健和会中央診療所2階(飯田市西四鼎581)
問い合わせ/0265-48-5231(月~金曜の14時まで)